

の個別地域ケア会議の実施報告について

個別地域ケア会議とは

地域包括支援センターが主催し、ケースに応じて介護関係者、民生委員、医療関係者、行政など様々な職種を招いて事例検討を行う会議です。検討のほか、以下の3点についての機能もあります。現在昭島市では5つの地域包括支援センターの単位で実施しています。

- ① 地域の介護支援専門員のケアマネジメント支援
- ② 高齢者の実態把握や課題解決のためのネットワーク形成
- ③ 個別ケースの分析により得られる地域課題の把握

1 事例の地域別・分類別件数（令和5年1月31日現在）

地域（包括支援センターの区域）	東部	西部	中部	南部	北部	合計
①認知症関連	8	1	3	7	3	22
②移送関連	1	0	2	0	1	4
③活動の場の充実	2	4	0	1	0	7
④ボランティア関連	1	0	0	0	1	2
⑤多職種関連	1	0	0	0	0	1
⑥孤立関連	1	0	2	0	2	5
⑦介護者支援関連	3	1	1	2	1	8
⑧医療関連	8	4	2	0	3	17
⑨生活困窮・権利擁護	2	0	0	0	0	2
⑩その他	1	2	1	1	1	6
合計	28	12	11	11	12	74

2 個別地域ケア会議の開催回数（令和5年1月31日現在）

東部	西部	中部	南部	北部	合計
7回	7回	11回	6回	7回	38回

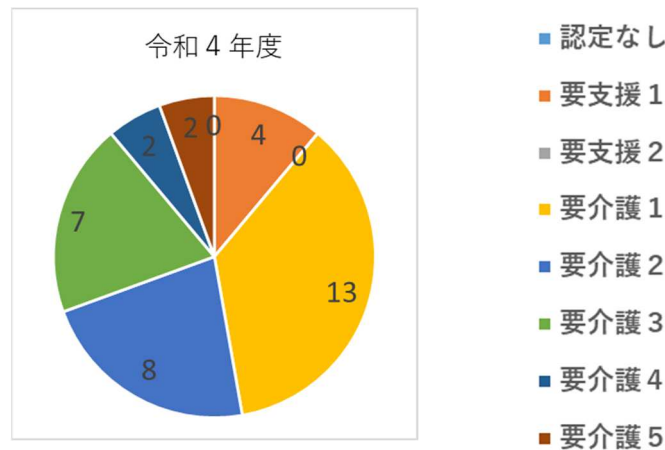
※ 東部は1回につき4事例、中部は1回につき1事例、その他は1回につき2事例

3 事例の状況

(1) 個別ケースの世帯構成（令和5年1月31日現在）

	単独世帯	高齢者のみ世帯	子等と同居世帯
事例数	39	21	14

(2) 個別ケース対象者の認定状況 (令和5年1月31日現在)



例年、個別ケースの対象者は要介護1～3が多い傾向にある。昨年と比較すると認定のない方や要支援2の方の数が減少しているが、その反面、要介護1の方の数が増えていることから、ケース検討が必要な方の介護度が上がった可能性が考えられる。

(3) 個別ケース対象者の主な疾患等 (令和5年1月31日現在) ※複数該当あり

全体を通して、対象者は認知症、高血圧、糖尿病を患っていることで検討ケースとして挙げられる傾向が高い。他には腰や膝などの身体的理由により生活上の困難を抱えるケースや、病気に伴う行動制限や家族の不理解なども挙げられた。なお、その他には前立腺肥大や骨粗鬆症、膠原病などが含まれる。

(件)

